

口頭証言のまとめ: (証言者番号 44) マシュー・ロバートソン氏 & レイモンド・ハインド博士

提供資料 (<https://osf.io/preprints/socarxiv/zxgce/>)

「死体臓器提供に関する公式データの解析により疑問視される中国の臓器移植改革の信頼性」

民衆法廷提出文書のリンク:

https://chinatribunal.com/wp-content/uploads/2020/02/Robertson_Hinde_Lavee_AnalysisOfOfficialDeceased-OrganDonationDataCastsDoubtOnTheCredibilityOfChinasOrganTransplantReform.pdf

本法廷が受け取った上記報告書に関するスピーゲルホルター卿からのコメント

<https://chinatribunal.com/wp-content/uploads/2019/06/Commentary-on-Robertson-et-al-Spiegelhalter.pdf>

2019年4月7日 口頭証言のまとめ

MR: 我々の論文は自発的死体ドナーの搬送に関する中国の公式データ全てについての初めての研究です。中国のコンピュータ化された COTRS (中国臓器割当共有システム) データの解析から始めました。ハインド博士はデータ解析の過程で、これが一般二次方程式に極めて近似していることを発見しました。この傾向を示す理由はないので、これは疑わしい。そこで我々は他のデータを分析し、奇妙な点か異常な点が見られるかを調べました。中国赤十字の中央データ、中国の全ての省単位の赤十字のデータ、いくつかの省のデータで無作為でなく不審に見えたものをサンプリングとして選択し、分析しました。5つの省では病院のデータを見て、赤十字のデータと比較しました。様々な分析の目的は、データの疑わしさに継続性があるかを確認することです。他にもいろいろなデータセットを確認し、説明不可能とまでいかなくても、恣意的な人的介入があったため意味をなさない結果となったと結論づけるしかありません。我々の分析では、データは数理モデルによって中央で捏造され、各省に割当量が分配されたと見受けられます。これが基本的な調査結果です。関連する多くの細部を論じた長い報告書になっています。

(サビ氏)報告書の18ページ(文頭の民衆法廷提出文書のリンク: page 6 of 20, Table 1)にはCOTRS から得たデータがあります。これは2010~2016年のドナー数とそのドナーを用いた移植件数を示していますね。

MR: はい、その通りです。

(サビ氏) 反対のページ(page 7 of 20, Fig 1)にこれを曲線で表しており、ここではドナー数が黒で表され、そのドナーからの腎臓と肝臓の移植数が示されています。これらの数字は、数式で定義できるような滑らかな曲線を描いています。したがって、これは通常のドナーがいて移植に関わる活動が行われている通常の社会によって生ずるランダム数字ではあり得ないわけです。

ね。あなたの理論をこうまとめてよろしいでしょうか？

MR： 大方そうですが、もう少し微妙です。レイ、なぜデータが偽造されたことを直接断定しないかを説明してくれますか？

RH： はい。あり得ないと言っているわけではなく、あれほど滑らかな増加になるのは想定外だ、ということなのです。なぜなら私たちは、大規模なセクターのインフラの話をしているのであり、滑らかな曲線でなく、ムラのある伸びかたを予想していたからです。

MR： あまりにも滑らかな曲線を見つけたことは、私にとっては捜査令状のようなものでした。このシステムが生成した他のデータも見ていきました。でもこれだけではデータは偽造されたという証明にはなりません。ただ、非常に疑わしく、想定外ということです。

(サビ氏)報告書の 21 ページ (page 7 of 20, Table 2) ですが、ここにある数字は 2017 年を除いて以前にあったものとほぼ同じです。この数字は 2018 年に COTRS の主任、王海波 Haibo Wang 医師が提示した、ということで正しいですか？

MR: はい、その通りです。

(サビ氏)これ以前の数字は黄潔夫 Huang Jiefu 医師が出した、ということでよろしいでしょうか？

MR： はい、両方とも後で公式ルートから出されました。ですから両方ともこの 2 人によって紹介され、その後、一党制国家が開催した公開討論会で公表されました。

(サビ氏) これらの数字がどのように数式 ($y=ax^2+bx+c$) にあてはまるかを、二次方程式がわからない人のために説明していただけませんか？ 判事団全員が数式を理解できるわけではないことをご念頭に置いてください。

RH： $y=ax^2+bx+c$ の公式ですが、 x と 2 は x の 2 乗という意味です。時間の 2 乗に加えて bx 項と cx 項があります。放物線を定義する数式で、この幾何学的形状はよく知られています。変数 a 、 b 、 c には、最も適合する任意の数字をあてはめます。 a 、 b 、 c の数値を決定する手法は、報告書の別表に示しました。集合的に近似する「最適値」で、放物線を生みだします。

MR： 2016 年から 2017 年のデータのモデルの単純化は、我々の分析に重要でした。初期データセットは 3 つの媒介変数を持った数式で説明できます。しかし 2017 年のデータにはもっと単純な数式がほぼあてはまりました。

RH: どんなデータでも曲線に合わせることはできますが、単純であればあるほど、データにパターンが存在するという解釈の説得性が高まります。今、言及された 2 つの表を再現しました。2 番目の表には一つ余分な数列があり、2016 年の数値が入っています。2015 年までのデータしかなかった時に徹底的な分析を行い、それに加えていったので、別に記載しました。

MR: 2016 年と 2017 年です。2017 年が新しいものです。

RH: あ、失礼しました。2017 年が新しいものです。我々は既に 2016 年までやり、それが放物線、つまり二次方程式に極めて近いことを発見しました。その後、新たに入手したデータポイントでこれまでの結論が裏付けられるかをテストし、かなり裏付けされる結果が出ました。ですからドナー数は予測可能というわけです。

(ラビ氏) つまり、2018 年のドナー数、2019 年のドナー数が、事前に予測できるということですね？

RH: その通りです。原則的には可能です。外挿法と呼ばれています。外挿法は不正確さで知られていますが、外挿法である一点がうまく一致していたので、これが決め手となりました。さらに、変数 B と C は不要だということも示されました。それらを捨てた変数 A だけの単純な数式にほぼ一致するので、説得性を高めました。

MR: しかし、予測力は無制限ではありません。放物線なので、ある時点で数字が大きくなりすぎ、可能の域を超えてしまいます。ある点でこのモデルから外れなければならない。また、報告書が公開され、データ偽造の可能性が議論されていることを彼らは認識しているので、我々が見いだした上昇傾向が続くとは思えません。

(サビ氏) 報告書の 23 ページ(page 9 of 20, Fig2)で決定係数 (R^2) について言及されていますね。ご説明いただけますか？これには批判もあります。

RH: 新しいデータポイントを追加したものに一般二次方程式を適用した時、変数 B、C はともに非常に小さくなります。このことから変数 B、C が不要であること示されました。ここにあるグラフは誤差の 2 乗の合計の差を示していますが、これは一致した線からどのくらい点が離れているかを単純に測定しています。誤差の 2 乗の合計が小さければ線にぴったりと合うわけです。このグラフでは、一般二次方程式に合っているもの、及び変数 B、C なしの二次方程式、つまりより単純な二次方程式 $y=ax^2$ に一致しているもの、これらの誤差の 2 乗の合計の差を示しています。曲線の高さは、一般式と特定の一つの変数のみとでどれだけの適合度の差が生じているかを示しています。ご覧のように、少なくとも 5160 に達します。これは 2017 年の数値で、2 つの変数を除き $y=ax^2$ だけを求めれば良いという説を裏付ける絶対的な論拠です。そして、実際の値の 4146 は、これに極めて近似しています。

(サビ氏) 言い換えると、もしも R^2 の結果が1 だったら 100%完全に一致しているという事ですか？

RH: その通りです。

(サビ氏) この方法を用いたことを、専門家デービッド・スピーゲルホルター卿は報告書の第5段落で間接的に批判しています。お手元の文書の300ページです。デービッド卿は「ここで注意しなければならないのは、決定係数 R^2 はこのようなデータの統計モデルとして相関性を測定する標準方法ではない」としています。デービッド卿は最終的には同意されていますが、標準方法ではないことと提起しています。

RH: ええ、その通りです。標準方法ではありません。ここで行っているのは通常の(データモデルの)方法ではありません。通常はデータがどのような推移を示すのかを十分に把握するためにデータをモデリングします。人の身長と体重の関係をグラフにすると、直線を描く傾向があるので、2つの未知の変数、ここでは体重と身長ですが、その間に関係があり、どのような推移を示すのかを理解することができます。ここでは、二次方程式の放物線が描けることが不自然であることを示そうとしているのです。二次方程式の曲線を描く物性的特性がないデータから得られた曲線です。さらに、本物のデータでないとしたら、データ内のランダムな変化、偶発的エラーなどは、本物のデータのようには現われたいはずで、少々専門的になりますが、ドナー数がモデルと一致する(特定された年の)データは、ポアソン分布(離散確率分布)に従います。ポアソン分布には特質があり、データをモデルに適用した場合、モデルから生じる誤差がポアソンに現れるのです。

MR: レイ、到着時のバラつきという意味ですよ。

RH: いいえ、ある意味ではそうなのですが。ここでは到着数のバラつきです。一歩下がってみましょう。我々がモデリングしているデータは年毎に変化します。変化は論理的には2つに分けられます。第一の変化は移植部門のインフラです。インフラの成長に伴い、ドナーの組織適合率は高まることでしょう。第二の変動は「バラつき」です。そこでは、死者が発生すると、組織適合の可能性、死体ドナー発生の可能性が、バラつきとして変動します。このため、変動の一部の予測不能なバラつき — ポワソンが出るわけです。モデルにデータを適正に入力していれば、ポワソン(分布)誤差が想定されます。データは真実ではないという観点に立つと、ポワソン変数のような変動はなく、他の不明な原因が数の変動をもたらします。

(サビ氏) 皆さんに国際移植学会の中国関係委員会の報告書の写し(中国・民衆法廷の[交信記録](#): p.64-65)をお配りしています。ジャック・カルブフライシュ Jack Kalbfleisch 博士という統計学者が雇われ、同博士もまた、付録1の決定係数 R^2 の使用を疑問視し「移植プログラムが伸び

つつある中国のような国で、安定した状態にある他の国よりも大きい R^2 があるのは誤っていると述べています。

RH: その点は報告書の中で極めて明らかにしています。様々な理由から中国では他より高い R^2 を予想し、困難ではありますが、できるだけこれを考慮しました。より大きな値であるはずですが。しかし我々が得たのはこのパターンで、このデータでは中国は急速に規模が増大しています。他国での R^2 の相関と比較した結果、中国の R^2 はかなりの異常値であり段階的な増加を見せていないことが判明しました。高くはなっているはずだが、こんなに高くはないはずだというのがポイントです。

(サビ氏) 報告書 26 ページ (page 10 of 20, Fig 4) のチャートに異常が見られます。赤十字が提供した数字です。このチャートの多くの異常について、なぜこれを異常と考えるのか、コメントしてください。

MR: まず、前の点をまとめさせてください。カルブフレイシュ博士のコメントは、特定部分の分析についてのコメントです。我々の論点を理解する上で、報告書の内容を個別に切り離すことはできません。それぞれの部分が重要であり、全体を構成しているからです。ですから赤十字の数値の異常は数式に極めて近似するという点で意義が深まるのです。1 つの分析や別の分析だけを扱っていたら報告書はできません。全体を組み合わせることで、魔法のようにパターンが現れてくるのです。

MR: 「異常」に関しては、重要な点を伝えさせてください。我々の調査者が赤十字のホームページを 2 日に一度アクセスしてデータを保存しました。そうでなければ一連のデータは入手できませんでした。赤十字のホームページは数日、あるいは数週間、1 ヶ月に 1 度などの割合で不定期に更新され、以前の数字は消去されます。新しい数値だけがアップされ過去のデータは提示されません。初めから透明性が甚だしく欠如しています。

(サビ氏) つまり赤十字ホームページの全ての数字は累積値で過去からの傾向はわからない？

MR: そうです。私たちが保存したから過去の傾向が把握できたわけです。

(ジェフリー卿) 数学、統計学に疎く、グラフを手にとされていない方もいます。これらの数字が虚偽だとしたら、その基礎前提は何でしょうか？数式に基づいて虚偽の数字が作られたのでしょうか？それとも、何らかの不正な方法で数字が先に作られ、それにほぼ一致する放物線から、虚偽だと示されるのでしょうか？

(サビ氏) ドナー制度は 2010 年に設置された新しいシステムであり、現在の移植数に見合った水準にまで引き上げるには、漸増曲線を使う必要がある、ということによろしいですか？

MR: はい。ジェフリー卿のご質問をまとめると「データはほぼ数理モデルに合っており、このデータは粉飾して作り上げられた。数式が最初に使われたのか？」ということですよね。私たちもこれを考慮しかなりの討議を重ねました。基本的に我々は、データ作成手順の逆行分析を試みたわけです。ハインド博士になぜ彼らが他のものではなくこの数式を使ったのかを尋ねました。直感的ではないように思えるからです。ですから公式の発見は重要なのです。このデータ作成に中学生の方程式が用いられるとは思いませんよね。どうして上向き曲線を手書きで作り、そして急成長の数字を適当に選ばないのか？適当に選ばばこれほど公式と近似することなく、同様の効果は出せます。レイ、説明してもらえませんか？モデルがあればシステムから数字を生み出せると言っていましたよね。

RH: その質問にお答えしましょう。モデルが出発点であることが示唆されます。そのモデルを使い続け、データを作成した。誤差を加えて完璧な曲線にならないようにした。彼らが様々な施設から得た情報を整合していないならば、数式を利用した説明がつかます。例えば、COTRS データは $y=ax^2$ が用いられると推測しました。赤十字のデータはそれにほぼ一致し、時間内ランダム点が与えられています。特定の年のデータを $y=ax^2$ のパターンに従わせることで、毎週もしくは隔週、どんな頻度でもホームページを更新する際のガイドラインとなります。数式があるので、累積グラフを導き出すことができます。COTRS の年間合計値に合わせるための数字設定の基準線があるわけです。

MR: この段階で中国当局は、あまりにも多くの要素を同時に扱っていました。実際の移植件数は国家機密であり、自発的臓器提供による合法的な移植件数もあり、我々が虚偽とする数値もあるわけです。全てを把握することは容易でなく、複数のデータセットがあるのでしょうか。真の数字はないかもしれません。少なくともモデルがあれば、システム内での整合性が維持できる、というのが我々の理論です。もちろん、わかりません。基礎データを見ていませんし、これを作ったと思われる人々からの承認もありません。

(サビ氏) 最後に、報告書の 26 ページ図 4 (page 10 of 20, Fig 4) の異常について説明されていますね。例えば、29 ページ(page 11 of 20)では 10 日間の期間内に 30 人のドナーが死亡認定されたため、これらのドナーから 640 個の臓器を得ることができたとありますが、1 人のドナーから 21.3 個の臓器が提供されたこととなります。各ドナーが 21 個の臓器を提供することは可能ですか？

MR: いいえ。不可能です。一般に平均 2.75 個が一定の数字です。

MR: データの異常は「意味をなさない」ことを示します。累積データで「ドナー 1 人につき臓器数 2.75 個」から逸脱した時点で、4 つの異常が生じています。データの異常が生じ、その関係が修正され、データが再設定されます。これは非常に疑わしいパターンです。1 人のドナーから

提供される臓器数が変動する異常値の出現が比率の修正時と一致するという事実は、事前に定められた結果を維持するためになんらかの指示が出され、手作業でデータが操られたことを示唆する、と我々は論じています。

(サビ氏) 最後ですが、33 ページ(page 13 of 20, Fig 8)にドナー登録数があります。ほぼ0から始まり、かなり大きな数字に急上昇しますが、ここにも異常はあります。2015 年末と 2016 年末に何が起きたのかご説明いただけますか？

MR: はい。まず、これは、「臓器を提供できるようになった場合、私の死後、進んで提供します」と認めた自発的ドナーの登録者の数です。米国では免許証の上に貼られます。2015 年のある 1 日にちょうど 25000 人増え、その後 2016 年に 2 倍になり、さらに 7800 人だと思っただけですが、追加されました。つまり、年末のある日 25000 人増え、それから 1 年で 2 倍になり、さらに 7800 人が追加されたのです。後者の数字は最近発見されました。レイが昨日か最近見たばかりです。我々が他のものとクロスチェックできるデータはこれ以外ありません。例えば、中国赤十字の中央データをチェックする場合、およそ 31 の省や地区の赤十字データを収集し、クロスチェックし、整合性を確認します。しかし、各地域がどれだけ全体に関与しているのかわかりませんので、「疑わしい」以外はあまり言えません。中国の事例を見て、例えば各省毎のデータを収集し、年末に中央のデータベースに記載したのだらうと想像できますが、それでも十分には説明できないのです。「25000 人ちょうど」ということはあり得るのでしょうか？ 年間を通して数は伸び続けました。説明のつくシナリオがあるのかもしれませんが、しかし、データに関するその他の異常・奇妙な傾向、ピッタリ 25000 人、2 倍増加+7800 人などから人為的操作と真のデータではないことが暗示されます。しかし、私たちはそれを証明できないし、私たちが見た他の要因に関してもあまり証拠がないのです。

(サビ氏) ドナー死亡者数のドナー登録者数に対する割合についてコメントされていましたが、世界の他の国とは著しく異なりますか？

MR: はい。中国は非常に高いです。

(サビ氏) 割合は？

MR: 数字は持ち合わせていません。その分析を報告に含めなかったのは、中国は他の国とは違うからです。他の国ではドナーになることを同意すると拘束性が生じます。中国では病院と家族の間の交渉から始まります。自発的な登録ドナーと言っても、ほとんどは宣伝目的か、大衆に「ほら、これだけの人がドナー登録している」と言わせるためだと中国の役人が言っていました。こうした登録ドナーでも病院が臓器摘出する場合、直系家族、場合によっては遠い親戚との交渉を重ねます。ですから中国の当局は、他の諸国とは比較できないと言い切ることができるのです。ドナーの大部分は自発的ドナーとしての登録はなく、家族の同意が必要であるなどの言い訳です。

ですからこの分析は報告に入れませんでした。自発的登録ドナー数に対する実際のドナー数の比率は他国に比べて中国はかなり低いです。数字は持ち合わせていませんが、見たことはあります。

(ジェフリー卿) ロバートソンさん、法輪功学習者またはその様な人との近しい関わりはありますか？

MR: 私は一般に法輪功と結び付けられているメディア The Epoch Times で働いていました。2016年の終わり頃まで5、6年働いていました。それ以外、個人の信仰に関するコメントは控えさせていただきます。興味深い点かと思われませんが、法輪功は社会的に主流とされないグループです。法輪功の修煉者の証言は、彼らが法輪功学習者であるというだけで無視されるという問題があります。これは他のグループではほとんど起こらないことです。ですから私の信仰は曖昧にしておくほうがいいのです。

(ジェフリー卿) よくわかりました。結構です。それがあなたの答えですね。ではハインド博士は？

RH: 私は法輪功との関係は全くありません。

(エリオット教授) ここにいる素人の皆さんのために、逆の質問をさせてください。人為的なデータ操作でこれらの数字が作成できる確率はどのくらいでしょうか？1000分の1でしょうか、1000分の1000でしょうか？ご覧になった数字が適正である確率は？

RH: データにも様々な部分があります。私は COTRS データなどの政府レベルのデータに関わりました。時間をかけてじっくり考えました。どちらかに結論を出せるわけではありません。実際できないのです。データが一つの変数で二次方程式に従っているのを見ると、違和感を覚えます。「そうなたただけで、心配することないね」と一蹴はできません。この特定のデータは、何かが起こっていることを示唆し、他の情報と繋げることができるかもしれない。他の情報と合わせることで、放物線へのこだわりが意義あるものであることが浮かび上がってきます。全体像の一部ですから。強力な裏付け証拠の一種と見ていますが、このレベルのデータとしては決定的ではありません。

(エリオット教授) 他の国、他の移植センター、他の移植コミュニティでも、二次方程式に沿った増加が見られますか？同時期の他のコミュニティと比較し、中国がどれほど異端児であるかを十分に把握する必要があるからです。

RH: いくつかの点で中国はかけ離れています。インフラの急速な拡張が増加の起因でしょう。おそらく多くの物的なインフラは既にあり、ドナーのデータベースを接続する通信レベルの設定などのソフト面でのインフラが増えているのでしょう。つまり、増加の仕方が他とはかなり違いま

す。既存の一部のインフラが極めて迅速に伸びています。極めて小さく始まりかなり大きく増加しています。平坦から上昇曲線になり、短期間で急カーブに伸び、最終的に横ばいになるのは妥当です。もう一点は、彼らは国として、多くの技術が既存する医療分野に参入しました。私は医療の知識はないのですが、発達し標準となった多くのテクノロジーを、中国は単に利用した。つまり通常的发展過程がなかったこともユニークです。そこにあるテクノロジーを習得するだけでよかった。複雑な状況であり、これら全てに匹敵する国はありません。始まりが低く、急に勢いよく上昇するなら、増加傾向の関数として漠然と放物線のようになります。二次関数により近く、指数関数的な増加にはあてはまらない、あてはまる度合いは遥かに低くなります。

(エリオット教授) ありがとうございます。よくわかりました。ロバートソンさん、曲線の話に戻ります。移植件数の増加は、現在の中国での高レベルまで到達しましたが、ここで説明された自発的な臓器提供システム以外の臓器源がなければ説明が付きません。それについてご説明いただけますか？ つまり、ご自身の計算と合いますか？ 他から採った別のデータセットから得られた予測数と一致しますか？ はっきりわかりましたか？ よく説明できませんでしたが。

MR：誰かが「ある年までに1万人のドナーが必要だ」といったのかもしれませんが。そこで部下が既定の時間内にその目的に到達するやり方としてこのモデルを持ってきたのかもしれませんが。一つの可能性です。数字が捏造されたと考え、実際の移植件数との関連は全くないと思います。憶測ですが、今も引き続き移植が行われていることの有益な裏付けとなります。数値が一致する必要はありません。「このデータが虚偽であることの不確実性を数値にしてくれますか？」という最初の質問に戻ります。私たちにはできません。移植システムには自然な増加モデルがないからです。硬貨を何度も投げて、裏表の出る確率が50/50にならなければ、それは偏った硬貨だということになります。しかし移植システムの増加傾向はどうあるべきなのかは分かりませんから、この傾向に至ったのが偶然である確率は出せないのです。10億分の1の確率なら、おそらく偽造だと言えるでしょう。オズの魔法使のような偽造の操作と言う解釈がおそらく、データがこのような形であることを説明できる唯一のもので、当局の説明は十分でなく、データがこのようになっているもっともらしい説明は他にないのです。もしもデータが本物だったら、臓器調達機関の開設、臓器コーディネーターの研修、ドナーからの承諾全てを、二次方程式にほぼ近い率で実行したことになります。これは極めて信じがたいシナリオです。事実であるかを確証する調査は試みていません。このシナリオを可能にするには、最初の年にOPO（臓器調達機関）が2つ必要で、翌年は5つ、と増加させていく必要があります。私が見る限りそのようなことにはなっていません。この独特の恣意的な数理モデルに、これら全ての要素があてはまることは、あまりにも信じがたいので、不確実性を数値で表す取組みはしていません。

(ヴィッチ氏) COTRS（中国臓器割当共有システム）2017年のデータについてもう少しお聞かせてください。放物線がどこに向かっているのかに関して、最終的な結論を判断するのは非常に難しいことはわかりました。非常に滑らかな曲線だということに関してもう少し理解したいのです。最終的な到着地点以外に、どういうことを示しているのでしょうか？

RH: 私たちが適合させたモデルでは最終地点は分かりません。以前、原則としては推定することができると言いましたが、ある地点で大幅に違ってくるでしょう。このまま続けるわけにはいかなくなりますから。ですから、この次にどこに行くのかと言う予測はしていません。観察にとどめました。これで答えになっていますか？

(ヴィッチ氏) はい。ありがとうございます。

(クー弁護士) 報告書の19ページ(page 7 of 20, Fig. 1)で、放物線、つまり二次方程式は、最終的にはいろいろな困難に突き当たるとされています。時間経過に伴い、ドナー数を加えていく必要があるわけですから。より単純な一次方程式に変わったということですが、なぜそのように考えるのですか？

RH: 一次方程式ではありません、単一の変数です。唯一の結論は、さらにデータを取得したので、浮かび上がってきた放物線に関する情報を得たということです。なぜそれが放物線になるのかの理由は言えません。

MR: 最初に使ったのだらうと思います。一般二次方程式でなく、単一変数の二次方程式を使い、不規則変数を加えたのかもしれませんが。そして最初のテスト段階で、その変数を用いた一般二次方程式に最も近いものを出したのでしょうか。しかし、さらにデータが増えると単純なモデルに従っているように見える。初期段階でより単純なモデルを使ったことが暗示されます。

RH: はい。遡って初期のデータに単一変数を適合させてみることも可能です。以前は明確に把握していませんでしたから。

(ジェフリー卿) ありがとうございます。比較的速やかなご証言でした。詳細な報告書があるからだけでなく、時間が押していることもここで打ち切る理由です。判事団からさらに質問があれば、その旨を文書で送ります。お答えいただけますか？

RH: はい。

MR: 喜んで。

(ジェフリー卿) 今日はご出廷いただき、ありがとうございました。証言の聴取を終わらせていただきます。